



研究員 吹野 之彦

平成7年の観光客の入り込み客数は、智頭急行の開通もあり、前年度より約40万人増加しています。このうち、約15万人分は智頭線の開通による関西方面を中心とした観光客の入り込み純増であったものと推計されます。今回、智頭急行線の開通による観光客の増加の波及効果を平成2年鳥取県産業連関表を用いて次のとおり試算しました。

智頭急行開通に伴い、観光の増加による波及効果は大きく、林業の産出額に匹敵する大きな額となっています。この経済効果は、来年度以降も続くものであり、鳥取県の観光を始め他の産業にも大きな影響をもたらすことは確実です。さらに付け加えるならば、平成7年は阪神淡路大震災により2、3月を中心に観光客は大幅に減少しており、このことを考慮すれば、平成8年以降はさらに大きな効果をもたらすものと考えられます。

ただ、県内の観光も前途洋々と思われるかもしれませんが、課題がないわけではありません。関西方面からの観光客の主流は1泊2日であり、逆に言えば県内の観光地、施設が2泊3日の観光に耐えられるものとなっていません。近年、燕趙園やわらべ館の開園、フラワーパークの建設など、観光施設も着々と整いつつあります。しかし、既存の施設の中では、リニューアルの時期が遅れたりするなど、リピーターをなかなか呼べない施設があるのも事実です。魅力のある施設、飽きない施設とするためには、施設のリニューアルを頻繁に行うとともに、こまめなイベントや独自の催しなどソフト面の充実が必要となってきます。さらに、中国横断自動車道岡山米子線の全線開通により観光客の新規開拓を目的に四国への観光PRも積極的に行われていますが、鳥取県にとって一番の商圈となる関西圏へのPRも継続していくことが必要です。

智頭急行の観光波及効果

生産波及総額 80億9千万円
(直接投資の 1.74倍)
粗付加価値額 49億円
(県民所得の 0.3%)

最終消費額(消費額)
46億5千万円

第1次間接効果

生産誘発額	粗付加価値誘発額
16億5千万円	37億3千万円
	雇用者所得誘発額
	19億7千万円

第2次間接効果

生産誘発額	粗付加価値誘発額
14億7千万円	9億6千万円
	雇用者所得誘発額
	4億3千万円

第3次間接効果

生産誘発額 粗付加価値誘発額

3億2千万円 2億1千万円

雇用者所得誘発額

1億円

(参考)

平成2年鳥取県産業連関表を使用しました。

波及効果の測定においては、34部門 $[I-(I-M)A]-1$ の開放型を使用しました。